

## 別記仕様書 I

**粗飼料等収穫・収納業務**

令和8年度の収穫場所は地図1に示す採草地(226.9ha)、兼用地(33.6ha)とする。

粗飼料の収納量等は下記のとおりとする。なお、収納量は甲乙協議の上で変更される場合がある。

収納業務において、業務処理責任者は、業務担当員(肉牛G)と事前に乙の計画する作業時間帯等を打ち合わせ、具体的作業内容を確認し実施すること。

原料草の水管理は乙が実施し、仕様書に適合するかの確認を各グループの業務担当員が行う。

ただし、天候等の外的要因により仕様書に適合させるのが難しい場合は、甲乙協議の上、収納の有無を決定する。

また、収納量不足が生じる場合は、乙が代替ロール等を調達し収納すること。それに係る費用については、不足が生じた原因を勘案し、甲乙協議の上、負担割合を決定する。

**1 牧草細切サイレージ【肉牛G】**

## (1) 収納時期

6月上旬から中旬

## (2) 収納量

乾物量換算170トン(目標水分量75%前後)

## (3) 収納方法

バンカーサイロのシート設置及び踏圧後の密閉、重し設置については肉牛Gが行う。

原料草の運搬及び詰め込み、踏圧については乙が行う。可能な限り、予乾を行う。運搬トラックは4台確保し、トラック1台当たり十分な踏圧時間を確保する(6~7分以上)。また、機械総重量が10トン以上のトラクターショベルを用いて踏圧することとする。

収納はS(南)バンカーサイロ→黒毛ドナー牛舎バンカー→N(北)バンカーサイロの順とする。

**2 ロールバールラップ【肉牛G、家畜衛生G】**

## (1) 収納時期

6月中旬から7月上旬(一番草)

8月上旬から9月中旬(二番草)

## (2) 収納量

ロール換算：肉牛949個(一番草で4割程度収納すること)

衛生180個(一番草で収納すること)

## (3) 規格及び収納方法

直径1.6m。1個当たり700kg以下のラッピング(水分量45%以下)

ラップは3層巻の50%フィルム重複とする。

保管場所は、肉牛牛舎及び衛生エリア周辺で業務担当員(肉牛G)が別途指示する。

## 粗飼料等収穫・収納業務

### 3 敷料及び乾燥ロール【肉牛G、中小家畜G、家畜衛生G】

#### (1) 収納時期

6月中旬から7月下旬

#### (2) 収納量

敷料：ロール換算 230個（肉牛）

乾草：ロール換算 30個（衛生）

ロール換算 220個程度（めん羊）※要望量77t：350kg/個換算。325kg/個の場合235個

#### (3) 規格及び収納方法

敷料：直径1.6m。1個当たり300～400kgのロール。（水分量15%以下）

乾草（肉牛・衛生）：直径1.6m。1個当たり250～350kgのロール。（水分量15%以下）

乾草（めん羊）：直径1.5m以下。1個当たり250～350kgのロール。（水分量15%以下）

乾草については、牧草割合の高い草地から収穫すること。

収納場所・方法は、肉牛グループ乾草舎及びめん羊乾草庫で各業務担当員が別途指示する。

### 4 飼養試験に用いる粗飼料について【肉牛G】

肉牛の飼養試験のため、圃場及び刈取時期を限定した粗飼料が必要となる場合があるので、乙の事業実施計画に支障をきたさないよう、事前に業務担当員（肉牛G）と業務処理責任者で協議を行う。

### 5 その他【飼料生産技術G、総務課】

乙は肥料の積み降ろし場所及び一時保管場所として総合肥料庫を使用しても良い。ただし、肥料の搬入等については、事前に業務担当員（飼料生産技術G）と打ち合わせる事。

総合肥料庫を使用できない場合は、都度協議する。

除草剤散布のために畜産試験場専用水道を使用しても良い。ただし、総務課専用水道担当に、事前に使用予定日を連絡し、使用当日に可否について確認をとること。

## 別記仕様書Ⅱ

## 草地維持・管理業務

## 1 放牧地等掃除刈り【肉牛G、中小家畜G】

## (1) 作業時期

6月から8月とする。

肉牛放牧地に係る具体的な時期・区域は、業務担当員（肉牛G）が別途指示する。

めん羊放牧地に係る具体的な時期等は、業務担当員（めん羊）が別途指示する。

## (2) 作業内容

ディスクモアで均一の高さに刈り取ること（刈取高 10cm）

めん羊放牧地に関しては、刈り取り後速やかにテッターで掃除草を分散させること。

## (3) 作業場所

肉牛放牧地 133.7ha、めん羊 45.8ha（22.9ha×2回）とする。

場所は、地図1示した場所とする。

## (4) その他

兼用地の採草利用は、時期等について業務担当員（肉牛G）と打合せを行うこと。

また、業務担当員（肉牛G）の指示があった場合は、兼用地の縁刈り等を行うこと。

## 2 放牧地肥料散布

## ■肉牛放牧地

## (1) 作業場所・時期

作業場所は、肉牛放牧地のうち概ね 45.1ha 程度とし、具体的な時期・区域は業務担当員（肉牛G）が別途指示する。

## (2) 作業内容

化学肥料をブロードキャスターで均一に散布する。

散布量は、化学肥料（13-6-13-3）を 24kg/10a とする。

## 3 堆肥散布 【飼料生産技術G】

本作業について、業務処理責任者は、業務担当員（飼料生産技術G）と事前に、乙の計画する作業時期及び散布場所等を打合せ、業務担当員の確認を受けて実施すること。

## (1) 散布量

予定散布量は 3,000 トンとし、堆肥保管場所から搬出し散布すること。

## (2) 堆肥保管場所

集中堆肥舎及び総合堆肥舎とする。

## (3) 散布場所

採草地及び更新地など

## (4) その他

本場以外の地域から堆肥搬入し散布する場合は、防疫上の観点から、事前に甲と協議を行い許可を受け実施すること。

## 草地維持・管理業務

### 4 採草地維持管理 【飼料生産技術G】

採草地は、甲乙で打合せを行った上で、計画的に施肥管理・防除等を行い生産性の向上に努めること。特にギシギシ類は継続的な防除が必要なため、対応する除草剤を使用した防除を実施すること。防除面積は最大で概ね15haとし、実施場所は事前に甲乙で打ち合わせる。薬剤は甲が準備する。

また、当該年に活用しない場合でも、掃除刈りを行うなど適正に維持管理に努めること。

草地の更新は概ね10ha程度とし、事前に業務担当員（資料生産技術G）と業務処理責任者とで協議を行う。

ただし、草地の更新により乙の事業計画に支障を来す場合には、甲乙協議の上、実施する。

### 5 畜産試験場におけるほ場試験について 【飼料生産技術G】

採草地の一部を用いて試験を行う場合があるので、事前に業務担当員（飼料生産技術G）と業務処理責任者とで協議を行う。ただし、試験の実施により乙の事業実施計画に支障を来す場合には、甲乙協議の上、実施する。

# 地図 1R 8ほ場利用計画



